

「LPGガス国際セミナー2019」で何が討議されたか  
③インドのLPG輸入2025年に1,835万トンを  
～インド国営石油プレゼンテーションから～

1. インドのLPG需給

インドの2018年のLPG需要量は前年比6.0%増の2,480万トン。2010年には1,380万トンだったから、この9年間で1.8倍となった。2016年に2,124万トンと2,000万トンを超えた。2018年の国内生産量は1,207万トン。2015年に国内生産量は1,048万トンと初めて1,000万トンを超えた。この年の需要量は1,789万トン。したがって、輸入量は827万トンとなった。インドでは石油需要の増加に対応して製油所が新增設されてきた。LPGの生産量は増加したが、LPG需要の伸びはそれを遥かに上回って伸びるため、輸入も急増していくことになる。2017年にはついに日本の輸入量を追い越し、インドが中国次ぐ第2のLPG輸入大国となった。1,100万トンだ。この結果、インドが国際LPG市場に及ぼす影響は極めて大きなものとなった。

2. インドのLPG輸入量はどこまで増加する

インドの2020年のLPG需要は2,917万トンとなる見込み。更に2022年には3,150万トンと3,000万トンを超える。2028年には3,545万トン、2031年には3,961万トンとほぼ4,000万トンとなる。国内生産量は2020年1,280万トン、2023年1,628万トン、2027年1,770万トンとなる。しかし、その後は1,770万トンの横ばいとなる。したがって、輸入量がどんどん膨らんでいく。2021年1,625万トン、2025年1,835万トン、2031年には2,199万トンと想定されている。おそらく日本の輸入量の2倍強となっているだろう。

インドは距離的にいっても中東産ガス国に対する輸入依存率が高い。しかし、それだけでは旺盛な需要の伸びを賄うことはできない。当然、米国からインドへのLPGの流れは大幅に増加していく（この点はウォルト・ハート氏の基調報告でも指摘されている）。しかも、徐々にプロパンの需要比率と輸入比率が高まっていくことになりそう。2018～2019年はインドの中東市場での買いが増加してCPを相対的に高める形となった。特に、需要構成に合わせてブタンリッチあるいはプロパン・ブタン混載カーゴの買いが増加することから、CPも「プロパン安・ブタン高」となることが多かった。また、これまでのLPG主要消費国だった日韓に比べて「冬場＝需要期」という特徴が希薄になる。しばらくはブタン高が続く可能性が高い。

3. インドのLPG用途別需要構成

	家庭用	業務用	産業用	輸送用
2018年	88	9	2	0.9
2031年	91.2	5.5	2.6	0.7

(注)単位・%

インドのLPG需要の9割は家庭用として消費されている。この傾向は今後更に強まる。2031年には91.2%となる見込みだ。2018年のLPG消費戸数は2億5,670万戸。LPG総需要2,302万トンの88%にあたる2,030万トンが家庭用に消費量だ。450万本のシリンダーで各家庭に持ち届けられている。

#### 4. インドのLPG流通ネットワーク

2018年現在のインドのLPG流通は次のとおり。

<生産・輸入>

① 製油所は22か所。980万トンを供給，②ガス分留装置10プラント210万トンを供給，③輸入ターミナル14か所。1,210万トンを供給。

<元売会社>

① インド国営石油（IOC）充填所数91，②バハラット石油（BPCL），充填所数51，③ヒンダスタン石油（HPCL）充填所数47。合計充填所数191。

<配送事業・販売事業者>

① IOC系列9,911，②BPCL系列4,868，③HPCL系列4,690。合計事業者数22,654。

<消費者戸数>

① IOC系列1億2,430万軒，②BPCL系列6,520万軒，③HPCL系列6,730万軒。合計軒数2億5,670万軒。